TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

神様の知恵　霊の体

コリントの信徒への手紙一 15 章 35 節－49 節

2025 年 10 月 4 日 & 5 日
余沢　武　牧師

1. 初めに

ご挨拶申し上げます。インパクト・ビルディング・プロジェクト（IBP）のために、捧げてくださりありがとうございます。来週区役所に行き、新しい建物を建てるまでこの建物の使用継続を許可してもらうようお願いしてきます。無事に許可されるようお祈りください。

・来週末には、聖餐式を行います。ぜひ参加してください。

・今週火曜日の 10 時 30 分からは、円満 素子さんのメモリアル・サービス（お葬式）があります。皆様ご参加ください。

コリント第一の手紙で、コリント教会の一部の人々がクリスチャンの体の復活を疑っていたことを学びました。パウロは彼らにこう語りました。

イエスの復活は私たちの復活の「初穂」、つまり見本であり保証である。

もし復活がないのなら、バプテスマも宣教も無意味となる。そうであれば、自分自身を神に捧げたりせず、この世で自分の欲望を満たすことに生きるしかない。

今日は、復活が「合理的で論理的な期待」である理由を見ていきます。まず祈りましょう。

2. 霊の体

(1)死を経て授かる新しい体

コリント一 15:35 を見てみましょう。

35:しかし、死者はどのように復活するのか、どのような体で来るのか、と聞く者がいるかもしれません。

コリントの人たちの中には「死者の復活」について聞いたとき、おそらくゾンビ、つまり「歩く死体」のようなものを思い浮かべた人がいたかもしれません。こんな風に。「ないない！ どうやって？ どんな体で？」

36-37 節です。

36:愚かな人だ。あなたが蒔くものは、死ななければ命を与えられることはありません。37:あなたが蒔くものは、後にできる体ではなく、麦であれ他の穀物であれ、ただの種粒です。

パウロは、疑った人々を「愚かな人」と呼びました。詩編 14:1 に書いてあります。『1:愚か者は心の中で言う／「神などいない」と』。まるで神がいないかのようにふるまっていたのです。

では、質問です。壊れた椅子やピアノを土に埋めてしばらく待ったら、そこから新品の椅子やピアノが出てくるでしょうか？ ― いいえ、出てきませんよね。

では、死んだように見える小麦の粒や桃の種を埋めてしばらく置いたら、そこから何かが芽生えるでしょうか？はい、芽生えてきますね。

こう言う人がいるかもしれません。「それは違うよ。だって、種や穀粒は死んだように見えても、新しい命が芽生えるために必要なものを全部、例えば DNA、RNA、タンパク質、酵素やその他のものを―すでに含んでいるからね。」

その通りです。では私はこう言いましょう。「それなら、椅子やピアノの“種”を作れば？」

「そんなの不可能だ。誰にも作れない。」と言うでしょう。

その通りです。

では、ゼロから設計して作るのに、どちらが難しいですか？ 椅子やピアノですか、それとも小麦や桃の種ですか？

もちろん、小麦や桃の方が椅子やピアノよりはるかに複雑です。人間は誰一人、それをゼロから作ることはできません。

では、そんな小さな死んだように見える小麦や桃の種の中に、新しい命に必要な DNA や RNA、タンパク質、酵素、その他のすべてを詰め込んだのは誰でしょうか？　神です！　実際、神は、鳥や蛇でも、小さな死んだように見える卵の中に、DNA や RNA、タンパク質、酵素、その他命に必要なすべてを詰め込むことができます。

パウロは言います。「愚かな人よ！」、なぜ神の力を疑うのか。なぜ神がいないかのように語るのか。もちろん神は、死んだ体を取り上げ、それを土に埋め、新

しい体に変えることがおできになるのです。それこそが私たちの神です。
パウロは言います。「愚かな人よ！　なぜ神がいないかのように考えるのか？」 どうして死んだ体を取り、埋め、永遠なる新しい体に変える神の力を疑うのですか？

(2) 神がその体を決定される
38－41節です。
38:神は、御心のままに、これに体を与え、一つ一つの種にそれぞれ体をお与えになります。39:どの肉も同じというわけではなく、人間の肉、獣の肉、鳥の肉、魚の肉と、それぞれ違います。40:また、天上の体もあれば、地上の体もあります。しかし、天上の体の輝きと地上の体の輝きとは異なっています。41: 太陽の輝き、月の輝き、星の輝きと、それぞれ違いますし、星と星との間にも、輝きに違いがあります。

パウロは言います。神はこの宇宙のあらゆる種、すべての体をデザインされたのです。神が与えたのは、
固有の「人間の肉」
固有の「獣の肉」――地を歩き回るのにふさわしい体。
固有の「鳥の肉」――空を飛のにふさわしい翼を持つ体。
固有の「魚の肉」――水の中を泳ぐにふさわしいヒレやエラを持つ体。

それぞれの体で、素粒子が軌道を巡り、原子・分子・DNAを形づくり、その命を保ち、この地上でそれぞれの役割を果たしています。

神はまた「天上の体」も、それぞれ異なる「栄光(splendor)」をもってデザインされました。新約聖書で「splendor(栄光)」や「glory(栄光)」という言葉は、「その存在を際立たせ、印象的にするもの」を意味します。たとえば「神の愛」が神を際立たせるものであるように、「愛」こそが神の栄光なのです。神は次のものを与えられました。
太陽には、その輝く光という栄光 ― それが太陽を印象的にしている。
月には、その夜を照らす光という栄光 ― さらに時や季節を治める力を。
星々には、それぞれに固有の栄光 ― 各星が自分の役割を果たす力を。
動物や魚と同じように、天体もまた素粒子が軌道を巡り、原子やそのすべての構成要素を形づくり、宇宙のバランスを保っています。神は地上のすべての体、天上のすべての体を、一つ残らずそれぞれの役割を果たすようにデザインされたのです。

(3)霊の体
42:死者の復活もこれと同じです。朽ちるもので蒔かれ、朽ちないものに復活し、43:卑しいもので蒔かれ、栄光あるものに復活し、弱いもので蒔かれ、力あるものに復活し、44:自然の体で蒔かれ、霊の体に復活します。自然の体があるのですから、霊の体もあるわけです。

そして神は、私たちを死から「新しい復活の体」へとよみがえらせます。次のように。
朽ちないもの。命においてますます満ちあふれていく。
栄光。神のように「私たちを際立たせるもの」すなわち愛、へりくだり、柔和、聖さ。
力。神の愛とご性質を強め、神の御心を行う力を持つ。
霊の体。「霊でできた体」という意味ではありません。聖霊に満たされ、導かれ、力を与えられ、生かされる体です。

たとえば、人が生まれるとき、父親から50%の染色体やDNAを、母親から50%の染色体を受け継ぎます。ですから母から生まれるとはいえ、その赤ちゃんは母と同じように造られるのではなく、父と母の両方によってできた「新しい創造」なのです。
植物の種を二種から交配するときも同じです。片方の植物から50%のDNA、もう片方の植物から50%のDNAを受け継ぎます。ある植物から落ちるとしても、もとの植物とは異なる構成を持ち、両方の植物によるまったく新しい植物になるのです。

人がイエスを信じると、その人のうちに聖霊が宿ります。そして死に、葬られ、よみがえらされたとき、もとは自然の体があったとしても、それと同じではありません。聖霊の働きによって、まったく新しい体を持つのです。
それが「霊の体」です。聖霊に満たされ、導かれ、力を与えられ、生かされる体です。
それでもなお「私たち自身」であるのですが、完全に新しい「私たち」となるのです！

45-49節です。

45:聖書に「最初の人アダムは生きる者となった」と書いてありますが、最後のアダムは命を与える霊となりました。46:つまり、霊のものではなく、自然のものが最初にあり、それから霊のものがあるのです。47:最初の人は地に属し、土からできた者ですが、第二の人は天に属する方です。48:土からできた者たちはすべて、土からできたその人に等しく、天上の者たちはすべて、天上のその方に等しいのです。49:私たちは、土からできた人のかたちを持っていたように、天上の方のかたちをも持つようになります。

かつて私たちはアダムの姿に似ていました。考え方もアダムのように、望むこともアダムのように、行動もアダムのようでした。しかし、復活のからだにおいては、私たちはイエスの姿を持つようになります。考え方もイエスのように、望むこともイエスのように、行動もイエスのように。これが復活の体のあり方です。
天国では、周りの環境も変わるでしょう。しかし、最も重要なのは、私たち自身が変わるということです。

『Stories for the Heart』という本で、クリス・グレイはこんな話を紹介しています。
ある老人がガソリンスタンドの外でロッキングチェアに座り、通りかかるドライバーたちに挨拶していました。
ある日、孫娘が隣に座っているとき、
背の高い男性が住む場所を探してやって、老人に尋ねます。「この町はどんな町ですか？」
老人は答えました。「あなたの出身の町はどんな町ですか？」
男性は言いました。「僕の町では、みんな人に対してとても批判的でした」
老人は答えました。「なるほど、それがこの町の様子ですよ。」
それから、ある家族が車で通りかかり、老人に尋ねました。「この町はどんな町ですか？」
老人は聞き返しました。「あなた方の出身の町はどんな町ですか？」
父親が答えました。「私たちの町は、みんな親切で、いつも助け合っています。」
老人は言いました。「なるほど、それがこの町の様子ですよ。」
孫娘は尋ねました。「おじいちゃん、どうして最初の人にはこの町はひどい町だと言って、次の人にはいい町だと言ったの？」
老人は答えました。「どこに引っ越しても、自分の心のあり方を持っていくのだよ。それこそが人生をひどくも素晴らしくもするんだ」

天国は素晴らしい場所になります。それは善い場所だからではなく、私たち自身が完全に変えられ、霊の体となるからです。

良い知らせがあります。天国は今日から始めることができます。
毎日の祈りと聖書のひと時（クワイエット・タイム）を通して、聖霊にお願いし、イエスのように考え、イエスのように望み、イエスのように行動できるよう助けてもらうのです。学校や職場、家庭でそれを実践することで、愛、へりくだり、柔和、聖さにおいて成長していきます。
モーセが40年間荒野で過ごした時のことを思い出してください。決して楽な生活ではありませんでした。しかし、他の人々が不平を言う中で、モーセはただ神に近づき、神が望むことを行いたいと願っていました。そして、満足していました――愛、へりくだり、柔和、聖さを保って。

これが、今日、私たちが「天国のさわり」を味わうことができる方法です。そしていつか、私たちが「復活の体」を受ける日が来たとき、これこそが私たちの人生すべての中心となり、満たされる喜びだけがあるのです。さあ、今日、天国をこの地上に持ってきましょう。サタンにだまされて、今日手に入れられる「天国のさわりの体験」を逃さないでください。

まだクリスチャンでない方も、今日からこの天国を体験することができます。自分の罪から立ち返り、イエスの十字架による赦しを受け入れ、聖霊の助けを得て、愛、へりくだり、柔和、聖さにおいて成長を始めるのです。今日から天国を始めましょう！

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 201

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

スモールグループ参加申込み

http://t-b-c.us/sgsu

オンライン献金

http://t-b-c.us/give

SG レッスンの PDF

https://t-b-c.us/sg4125jp

★クラス 301
私の賜物ってなんだろう？
10 月 12 日（日）1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール（B1）
参加条件: クラス 201 まで修了した、TBCメンバーの方

★クラス 101
教会員になるためのクラス
11 月 8 日（土）1:00pm – 5:00pm
場所: ランゲホール（B1）
参加条件: どなたでも

★クラス 401
人生の使命を発見する
11 月 9 日（日）1:00pm – 5:00pm
場所: ルーム 304（3F）
参加条件: クラス 301 まで修了した、TBCメンバーの方

全クラス申し込み：https://t-b-c.us/classes

奉仕者募集中！

急募！

日本語訳レイアウト＆印刷

（女性 3 名募集）

英語のスキルは必要ありません。
・月 1 回、土曜日 16 時に TBC にて作業します。
今見ているこの紙を作成＆印刷してもらいます。
ひな形があるので翻訳された原稿をコピーして貼り付け整え、印刷するだけの簡単な作業です。

*スキル：MS Word の操作ができる方。
*TBC の教会員であることが必須です。

連絡先：hiromik@tokyobaptist.org